

●神奈川県大和市

教育最前線
連載 45

保険付きの自転車運転免許証の交付で 小・中学生への自転車教育の充実を図る



6月7日に大和市立上和田中学校で開催された「自転車交通安全教室」は1年生約100名が受講。大和市の交通安全教育専門員や損害保険会社のスタッフが指導を担当した

てきた。そして、平成28年11月からは、この自転車運転免許証に自転車保険を付けたのである。

これを機に、大和市は保険の加入対象となる小・中学生への自転車教育を充実させるため、従来の内容と実施時期を見直し、平成29年度から再構築した。

これまで実施してきた低学年を中心とした実技指導による「自転車乗り方教室」に加え、小学5年生で「自転車交通安全教室」を設定した。自転車の交通ルール・マナーとともに自転車の事故事例を紹介し、事故の恐ろしさを伝えるという内容であり、この教室を受講することで、自転車運転免許証が交付される。

また、中学生に対しては、これまで一部の中学校でスケアード・ストレート(スタントマンによる交通事故の再現)による教育を実施してきたが、市立全9校の1年生を対象に「自転車交通安全教室」を新設し、自転

車利用者の立場でのKYTを行ったり、自転車の事故事例を通じて、保険の観点から損害賠償発生や民事・刑事上の責任が及ぼす影響について考える内容となっている。

大和市都市施設部道路安全対策課課長の山川さんは「小・中学生いづれも、自転車事故の加害者となってしまった場合、どのような責任を負うことになるのかを理解してもらい、安全運転と事故防止につなげていくことを目的としています」と話す。

保険付きの自転車運転免許証の交付には「自転車乗り方教室」や「自転車交通安全教室」の受講を条件に、保険料は市が全額を負担している。自転車乗用中に他人にケガをさせたり、他人の物を壊したりして法

■市立小学校

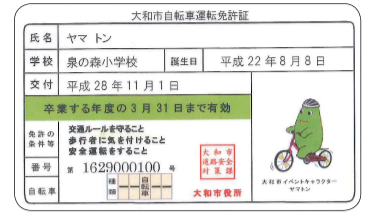
	主な内容	対象
自転車乗り方教室	●模擬道路での実技指導	・19校(希望) ・主に3年生
自転車交通安全教室	●自転車事故事例による事故の恐ろしさ ●交通ルール・マナー	・19校(全校) ・5年生

↓自転車運転免許証交付

■市立中学校

	主な内容	対象
自転車交通安全教室	●交通事故が及ぼす影響、民事・刑事上の責任について ●交通ルール・マナー	・9校(全校) ・1年生

↓自転車運転免許証交付



小・中学生に交付される自転車免許証。裏面には自転車安全利用五則と、事故が起きてしまった場合に連絡するフリーダイヤル(24時間365日受付)が記されている

律上の損害賠償責任が発生した場合に保険金が支払われる。今年5月までに8件の自転車事故で、この保険が適用されている。

こうした取組みは学校や保護者にも好評で、他の自治体からも関心が寄せられている現状だ。「保険の補償範囲は子どもたちだけでなく、同居の親族全員も含まれます。ですから、親や祖父母の世代への自転車教育についても充実させていく必要があると考えています」と山川さんは今後を見据える。

■大和市の自転車保険の主な内容

対象	・大和市立小学校に在籍している5～6年生 ・大和市立中学校に在籍している1～3年生
事故の対象エリア	日本国内
賠償責任保険金額	1億円(自己負担額0円)
補償期間	1年(在学中は自動的に更新)
補償範囲	同居の親族全員(6親等以内)
示談交渉サービス	あり



自転車の事故事例やKYTを使って、事故の原因は何か、どのようにすれば防げるかを生徒に考えてもらう

神奈川県のはほぼ中央に位置する大和市は市内全域が平地であることから、市民の自転車利用が多く、自転車に係わる交通事故が全交通事故件数の約3割を占めている。そのため、同市では市民への自転車教育に力を入れている。

その1つとして、平成25年度から「自転車乗り方教室」を受講した市立小学校の児童に対して自転車運転免許証を交付し

現場訪問

●コカ・コーライーストジャパン(株)

業務で運転が必要となる新入社員に 安全運転のマインドと技術を伝える



交通教育センターレインボー埼玉のインストラクターが模範となる運転操作を新入社員にわかりやすく示す

あります。入社段階で正しい運転操作を身につけてもらい、事故の抑制につなげることが研修の目的です」。

5月12日、レインボー埼玉で研修が開催され、新入社員19名が参加した。午前中は「動画KYT」(3面参照)を活用した座学からスタート。見えない危険をできるだけ早く予測することで、アクセルを緩める、ブレーキをかけるなどの対応ができ、事故の回避につながるとインストラクターが受講者に伝えた。続いて、運行前点検のポイント、正しい運転姿勢をインストラクターが説明していく。

車庫入れや狭路走行に取り組む新入社員の運転状況をインストラクターがチェックしながらアドバイスをしていく



午後からはトレーニングコースに出て、車庫入れ、縦列駐車、狭路走行を実施。車庫入れと縦列駐車は、インストラクターがそれぞれ安全・確実に行うための模範を実演。狭路走行ではパイロンによって道幅が狭められたS字やクランクを通過する。切り返しを行っている受講者には、インストラクターが「不安を感じたら、必ず降車してください。パイロンに接触してしまった人は、なぜぶつけてしまったのか考えて次に活かしましょう」とアドバイスした。

前野さんは「運転免許を取得して1年以上の新入社員が多いため、最初は苦戦して



「動画KYT」では実際の交通状況を再現した動画を見ながら、危険を感じた場面です元のボタンを押す。その後、各々が押したタイミングを比較することで、他者との危険感受性の違いに気づいてもらう

いましたが、トレーニングを重ねることで上達していく様子を確認できました」と研修の成果を語る。レインボー埼玉では、新入社員一人ひとりの運転の特徴をインストラクターがチェックし、レポートをコカ・コーライーストジャパン(株)に提出している。同社では、それを配属先の上司と共有し、職場でのフォローアップに活用しているという。

今回を含めて研修は5月中に5回開催され、合計103名が参加。さらに、配属先でトラックを運転する新入社員は6月にレインボー埼玉とレインボー浜名湖で行われる1泊2日の研修も受講した。

コカ・コーライーストジャパン(株)(本社:東京都港区)は、コカ・コーラ製品の製造をはじめ、関東・東海・南東北の1都15県で物流・輸送・販売を行っている企業だ。同社では毎年、業務で車両の運転が必要となる新入社員を対象に「新卒安全運転研修(以下、研修)」を実施。関東・南東北地域に配属された新入社員は交通教育センターレインボー埼玉(以下、レインボー埼玉)、東海地域に配属された新入社員は交通教育センターレインボー浜名湖(以下、レインボー浜名湖)で受講する。

コカ・コーライーストジャパン(株)サプライチェーン本部配送統括部車両企画管理部安全推進課の前野隆洋さんは、新入社員への安全運転教育の意義を次のように話す。「入社1～2年目の社員は、軽微ではあるものの事故を起こす割合が高い傾向が